

スキープログラム



はじめに “教育の一環”としてのスキープログラム

ニューヨーク育英学園のスキープログラムは、単なるスポーツ体験やレジャーではありません。私たちはこの課外活動を、学校教育の**一環**と位置づけています。子どもたちが雪山で過ごす時間は、教室での授業で得た様々な知識を、実際の場において、なかまとともに実践するという多面的な学びの機会得られる貴重な機会です。

また本学園では、「グローバル」・「ニューヨーク」・「日本」という三つの観点を重視しています。ニューヨークには、世界中から多種多様な人たちが集まります。それは、本学園においても同様です。ニューヨークという地で、このような多様な背景を持つなかまとともにおこなうスキー・プログラムは、体験教育としてのスキーだけでなく、日本ではみにつけずらいグローバルな多様性を身につける人間教育の貴重な機会となります。

ニューヨーク育英学園ならではの工夫

日本語でのレベル別指導

初心者から上級者まで、すべての子どもが自分に合った指導を受けられるように体制を整えています。母語である日本語での説明は理解を助けるだけでなく、学びを感覚的に深め、安心して挑戦する環境をつくります。教室では得られない「**多面的な学び**」を体験できることが大きな特徴です。

体系的なプログラム設計

日帰り教室ではスキー技術の習得を重視し、宿泊キャンプでは共同生活や自然体験を通じた総合的な成長を重視するなど、学年や発達段階に応じて、体験教育の側面と人間教育の側面にも配慮し教育目標を段階的に設定しています。単発のイベントではなく、シーズンを通して「**教育課程の一部**」として機能するように設計されているのも特色です。

安全と教育を両立させた環境づくり

本学園では、安全管理そのものも「**教育の一部**」と捉えています。ヘルメットや装備の正しい着用、雪山でのルール遵守、転倒からの立ち直り方など、一つひとつの行動を通して「自分の命を守る力」「仲間を気づかう力」を学びます。単に受動的に“安全に守られる”のではなく、主体的に“**安全を自らつくる**”意識を養うことも教育の重要な要素であると考えています。

異年齢交流による学び

プログラムでは、異なる学年やレベルの子どもたちとも自然に関わり合います。上級生は下級生の手本となり、下級生は憧れや挑戦心を持ちながら活動に参加します。この「小さな社会活動」は教室だけでは得にくい学びであり、思いやりやリーダーシップを実際の行動を通して育てます。



学園全体との連動

スキープログラムは単独で存在しているのではなく、サマースクールやアフタークラブなど、他の教育活動とも連携しています。例えば、スキーで養った挑戦心や協調性は、サマースクールでの自然探究やクラブ活動での創造的学びへとつながっていきます。このように同学園では、課外活動を“体験教育”、“人間教育”の重要な要素と考え、「年間を通じた循環」を重視しています。

スキープログラムだからこそ学べる三つの“教育特徴”

1. 自然を通じた体験による五感の育成

雪の冷たさ、眩しい光、足裏に伝わる斜面の感覚、転倒したときの痛みや起き上がる達成感。実際の雪山での活動は、子どもたちの**五感を刺激**し、身体を通して学ぶ機会を与えます。「**自然のなかでの実践**」を体験できることは、教育として非常に重要な機会となります。



2. 自律心と挑戦心

スキーは一人ひとりが自分のペースで挑戦するスポーツです。初めは転んでばかりでも、練習を重ねるうちに自ら立ち上がり、上達していきます。「**できなかったことができるようになる、そのために努力をする**」経験は、自己肯定感を高め、日常生活や学習においても自信を持って行動できる力へとつながります。



3. 仲間との協調性

スキーキャンプでは、班ごとに分かれて生活や練習を行います。様々な成長過程を経て、ニューヨークで出会ったなかまたちと、互いに声を掛け合い、助け合いながら過ごす中で、自然とグローバル感や**協調性、リーダーシップ**が養われます。特に宿泊プログラムでは、共同生活を通じて責任感や思いやりも実践的に学ぶことができます。



グローバルな視点での教育効果

ニューヨーク育英学園のスキープログラムは、ただスキーができるようになるためのものではありません。子どもたちが「**日本の文化に触れること**」と「**国際社会に必要な力を身につけること**」、その両方を同時に体験できる貴重な教育の機会です。

日本文化にふれる学び

日本では、学校教育の一環としてスキーを取り入れている地域が多く、冬の生活文化とも深くつながっています。同様にスキーが冬の生活文化となっているここニューヨークで過ごす子どもたちにとって、このプログラムは「アメリカの文化を理解するとともに、**日本の文化を自分の体で実感する場**」になります。雪に親しみ、自然の中で挑戦する体験を通じて、子どもたちは自分のルーツを意識し、日本とのつながりを再確認することができます。

多文化の中で育つ力

一方で、ここニューヨークは多様な文化が共存する場所です。異なる背景を持つ仲間と協力しながら雪山で学ぶことで、子どもたちは「**違いを尊重しながら、自分を表現する力**」を自然に身につけていきます。転んだ友達を励ます、順番を譲り合う、そうした一つひとつの行動が、将来国際社会で必要とされる協調性や共感力につながっていきます。



日本と世界をつなぐ教育

つまり、このスキープログラムは、「日本文化を受け継ぐ体験」と「グローバル社会で活かせる学び」の両方を兼ね備えています。国内で行うスキー教室が地域に根ざした教育だとすれば、本学園のプログラムは、ニューヨークという国際的な環境だからこそできる“特別な教育”です。子どもたちが自分のアイデンティティを大切にしながら、広い世界へと羽ばたいていくための大きな一歩となるのです。

指導者の専門性

教育活動において、指導者の専門性は子どもたちの学びの質を大きく左右します。本学園のスキープログラムでは、競技経験と教育経験の双方に優れた人材が中心となり、安全かつ質の高い指導を実現しています。

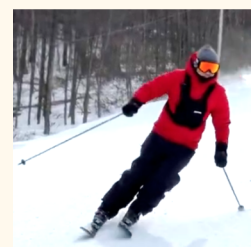
笠間将平 ディレクター

日本体育大学での専門教育を基盤に、12年間にわたりスキー指導員として活動。本学園ではスキーキャンプのみならず、幼児体育からアフタークラブに至るまで幅広い世代の子どもたちの成長に寄り添う。現場経験に裏付けられた判断力と、安全性と教育効果を両立させる運営力により、プログラム全体を統括。スポーツ分野のスペシャリストとして、学園教育における体験学習の柱を担っています。



青砥亮太 チーフ

北海道で幼少期から雪とともに育ち、物心ついた時にはすでにスキーを履いていたという生粋のスキーヤー。アルペンレーサーとして早くから頭角を現し、北海道ジュニアチャンピオンを獲得。その後、フリースタイルモーグルや技術選にも挑戦し、多彩な経験を積んだ。大学時代にはレーシングコーチとしてジュニアレーサーを指導。競技者としての経験と指導者としての力量を兼ね備える。競技レベルで培った高度な技術と分析力を活かし、一人ひとりの子どもに最適な指導を実践。現在は本学園スキープログラムのチーフとして、学園スタッフが共通して実践できるスキー指導マニュアルの作成。これにより、スタッフ全体の指導力を底上げし、プログラム全体の教育効果と安全性をさらに高めています。



学園全体の強み

さらに本学園では、スキーに限らずサマーキャンプやアフタークラブにおいても、芸術・スポーツ・言語など各分野に専門性を持つ講師陣が揃っています。それぞれが専門分野で培った知識や経験を、子どもたちの「体験教育」と結びつけて提供できることが大きな特色です。

「専門性に基づいた教育を、体験を通して行う」、これはニューヨーク育英学園ならではの強みであり、子どもたちの未来を広げる確かな土台となっています。

おわりに

ニューヨーク育英学園のサマースクール、アフタークラブ、スキープログラム、いずれの活動も、子どもたちの「**体験教育**」と「**人間教育**」を体現する実践的な学びの場です。自然との対話を通じて、子どもたちは自分の力を知り、仲間と協働し、失敗を恐れず挑戦する心を育みます。これらはすべて、教室での勉強を支える土台となり、将来にわたって生き続ける「**学ぶ力**」となります。



ニューヨーク育英学園のスキープログラムは、単なる課外活動ではなく、グローバル社会を生きる子どもたちに、日本の教育と国際的な経験を融合させた“生きた学び”を提供する教育の一環です。私たちは、このスキープログラムを通じて、子どもたち一人ひとりが心身ともに大きく成長し、学園生活のみならず人生の中で自信と勇気を持って歩んでいけるよう、全力でサポートしてまいります。

スキープログラムディレクター 笠間将平
スキープログラムチーフ 青砥亮太